

# ファッションで浜松の街へ旅立とう!

シリア・イラク・イスラエルにパレスチナ…近年、何かと物騒な国々に四方ぐるりと囲まれた小国「ヨルダン・ハシェミット王国」、先日の我が家の夏休み旅行先だ。

中東では格段に安全なこの国は、死海での優雅なリゾート、アラビアのロレンスの月の砂漠、モーゼの十戒の舞台などなど、北海道ほどの国土に多彩で魅力的な見どころ満載の「観光大国」なのだ。

なかでも私の今回の目的地「ペトラ遺跡」は、981ある世界遺産の中でもベスト10に入る人気の秘境。切り立った岩壁の間の細長い道を延々たどって行くと、突如タイムスリップを起こしたかのように現れる古代都市は、鳥肌が立つほど美しい! 映画「インディジョーンズ 最後の聖戦」の舞台となった、バラ色の砂岩の宝物殿「エルハズネ(写真)」に見覚えのある方も多いただろう。

さて、旅先で私が気になるのは、やはり「ファッション」!

ヨルダンだってももちろん、普段私たちが着ているような洋服なら、ショッピングモールに行けばありとあらゆる有名ブランドが揃っている。

でも、イスラムの戒律では、女性は身体や顔を夫以外の男性に見せるのはご法度。

実際に私が見かけた多くのアラブ女性は、スカーフでしっかり頭を覆うか、アバヤという布(黒が多い)で身体中、時には顔まで隠した伝統的なスタイル。

それでもリゾート地なら開放的になる? と思いきや、訪れた死海のリゾートホテルのプールサイドでの彼女たちは、ブルキニと呼ばれる頭からすっぽりと覆う全身タイトのようないでたちで、ビーチボールを片手にはしゃいでいた…ピキニの大和撫子(私)が気恥ずかしくなってしまう程の奥ゆかしさ! そして唯一主張するのが、遠目でもわかる程大胆にアイラインを引いた大きなアーモンドアイ…このバランスが、女の私も見惚れるアラブ女性のエキゾチックな風情の秘密なのだろう。

5日間の駆け足旅行だったけれど、私は今までの旅先のベスト5に挙げたい位に、ヨルダン旅行を人に薦めたい! おっちょこちょいの私はなんと、旅行初日に首都アンマンの埃っぽいダウンタウンでiPhoneを落としてしまい、血相を変えて道端で慌てふためいていると、ピチピチシャツに恰幅のいいカラダを包んだオジサマが、遠くから私のiPhoneを握りしめて走って来た! しかも大勢の仲間を引き連れて!(ヨルダン男性は、タイトなTシャツがお好き。)こんな異国の、しかも雑踏の中で、ニホンジン観光客の携帯が戻ってくる…なんてアメイジング!! 満面の笑顔でiPhoneを手渡してくれた彼らを見て、私は一気にこの国が好きになった。

遠い日本から見れば、この国は危険なイメージの中東国だけれど、フレンドリーな笑顔とお国柄はとびきりステキだ。



佐々木まり子

肴町のレディースブティック「Sun Marry」オーナー。Sun Marryは、お客様は3歳から100歳、取扱いブランドは50以上という幅広いバリエーションを持つセレクトブティック。最近では自ら企画したガールズハット「ブティマリー」を全国に向けて通販展開している。おしゃれのお手伝いで、関わるすべての女性をより素敵にして、最高の笑顔を引き出したい! と日々奮闘中。